犬のがん抗体医薬開発

悪性リンパ腫に効果

山口大共同獣医学部の水野拓也教授ら研究グループ

山口大共同獣医学部の水野拓也教授（獣医内科学）らでつくる研究グループが、犬の血液がんの一種、悪性リンパ腫の抗体医薬を開発した。犬のがんの抗体医薬は初めてで、新しい治療法として期待される。

水野教授によると、B細胞性悪性リンパ腫の抗体医薬で、B細胞の表面にある「CD20分子」を標的にして殺傷する。CD20分子を標的にした抗体治療は人間のがん治療では一般的だが、犬用はなく、2005年ごろから研究を続けてきた。

マウスを使った実験で抗体医薬の効果を確認した。健康な犬4匹に投与したところ、CD20分子を持つB細胞が投与翌日にほぼゼロになり、その状態が2～3週間続いた。昨年から悪性リンパ腫の犬に投与する臨床試験を同学部の付属動物医療センターで始めた。

従来の抗がん剤治療ではB細胞性悪性リンパ腫の2年後の生存率は20％だった。臨床試験では、抗がん剤治療と組み合わせた場合に2年後の生存率が上がるかどうかや、抗がん剤治療が効かない場合の治療効果を調べる。

悪性リンパ腫は、毎年10万匹当たり約100匹が発症し、中でもB細胞性が最も多い。犬に比較的多いがんで、若い犬もかかりやすいことから、新しい治療薬の開発が求められていた。犬の抗体医薬で市販されているのはアトピー性皮膚炎の治療薬のみという。

水野教授は「従来の抗がん剤治療による生存率は20％で、20年以上変わっていない。生存率を少しでも引き上げたい」と話した。

（重原沙登子）

犬の悪性リンパ腫の抗体医薬を開発した水野拓也教授＝山口市吉田

無料でパソコン回収

小型家電再資源化へ

周南市が企業と連携協力

周南市は17日、リサイクル会社のリネットジャパンリサイクル（愛知県）と連携協力に関する協定を結び、市内の家庭で不要になったパソコンを無料で回収するサービスを始めた。小型家電の再資源化を促進する。

サービスを利用したい市民が同社のインターネットサイトに申し込むと、業者が無料で自宅に取りに来る。携帯電話センター、電子レンジ対象だが、パソコンない場合は1箱につき50円（税込み）かかる。

市役所で協定の調印式

テレビ会議システムで協定書を掲げる中村俊社長（右）と藤井律子市長＝17日、周南市役所